

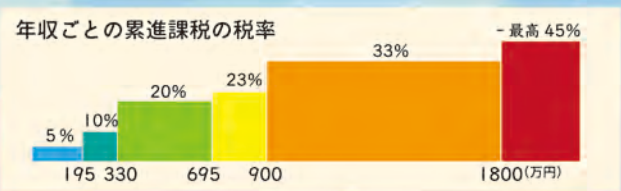
いま、先行き不透明な日本の未来に、政治は何ができるのか。日本維新の会なら、住民の皆さんにどんな未来を提示できるのか。神奈川10区の支部長である**金村りゅうな**が新型コロナ対策で国よりも先手の対策を次々と打ち出している**吉村大阪府知事**（日本維新の会代表代行）と対談を行いました。



Chapter 1 働くだけでは裕福になれない社会 日本

金村さんは今の日本の問題点はどこにあると思いますか？

色々ありますが、まず1つ目に働いても裕福になれない税制です。今、日本でも貧富の格差はどんどん広がっています。



日本の税制は労働所得に重たい課税です。稼ぐほど税率が上がり、年収が900万を超えると、単純計算では手取りが少なくなる逆転現象も生じています。

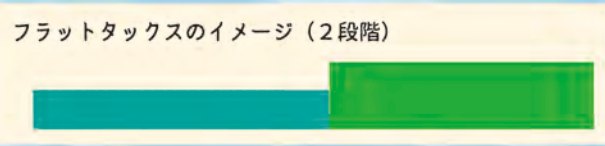
年収	所得税	手取り
900万円	297万円	= 603万円
850万円	196万円	= 654万円

※ごく単純化した計算 ※千円単位四捨五入

確かにこれは頑張ってる人のやる気を削ぐことになりかねないですね。

そう思います。頑張ったら頑張っただけ手取りも増えないと**夢がない**ですよ！労働への税はもっと簡素で良いと思います！

フラットタックスですね。簡素な税制は徴税にかかる行政コストも下がるので実際の税率以上の財政効果があるとも言われています。



他にも、扶養に入ってる方は働けるのに勤務調整をすることがあります。働く意欲があるのに本当に勿体ない税制だと思います！

Chapter 2 活力を生み出す新しい社会保障制度

とにかく働ける人はしっかり働いて稼いでもらえる税制にしないと、この先の日本を支える活力が社会から失われてしまいます。

ただ、問題は税率と財源ですね。仮に今の中間所得の10%~20%の間で税率を取ると低所得層には負担増となり、高所得層からの税収は減るので財源の問題も出てきます。

その対策として新たにストック(資産)課税を導入すべきと考えています。



労働への課税を軽減 資産への課税を新設

労働への税は軽減して手取りを増やし、その結果として順調に裕福になった人には、資産から課税するという考え方ですね。

そうです。働いても裕福になれないより、裕福になるにつれて保有資産に課税される方が納得感があります。

貧富の格差解消にも有効な制度になるでしょうね。財源は良いとして、低所得層の方にはどうしますか。

時代に合わせて社会保障を一から作り直す必要があります。ごく単純に言えば低所得層の方の税率が上がっても、その分給付が返って来れば、使えるお金は同じになります。今の複雑な各種給付制度を一本化して、シンプルで分かりやすく、公平な制度体系に置き換えることで活力の税制は実現可能です。

そこは住民の皆さんも一番聞きたいところだと思います。ベーシックインカム議論も合わせてぜひ次回詳しくやりましょう！